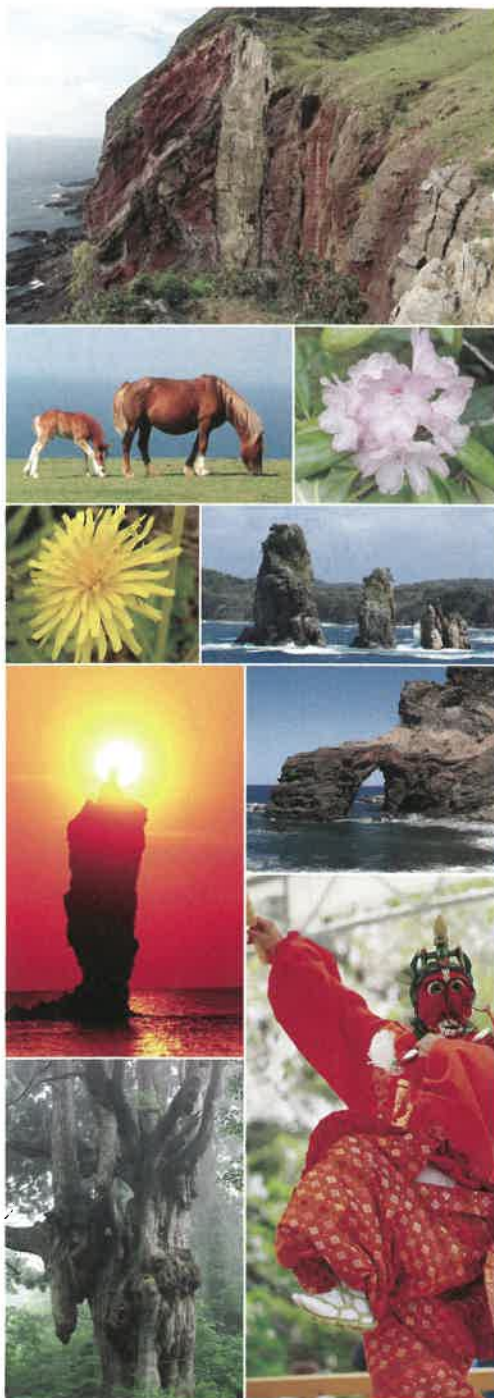




特集「隠岐ジオパークの世界認定について！」



祝 世界認定 隠岐世界ジオパーク

祝 世界認定



- P2 隠岐ジオパークの世界認定について!
- P3 オキタンポポの分布を調べました
- P4 しまねレッドデータブックの第2次改訂を行いました
- P4 しまねレッドデータブックの第2次改訂にあわせて 企画展「救え!消えゆく生きものたち」が開催されます!
- P5 城山(須賀比山) 自然観察会 (奥出雲町)
- P5 地倉沼チョウジソウ(丁字草) 観察会 (津和野町)
- P6 月山富田城跡 (安来市)
- P6 自然の中で万葉のスタンプラリーを楽しもう! (益田市)
- P7 宍道湖グリーンパークの企画展 (出雲市)
- P7 断魚溪が地域の力で復活しました!(邑南町)
- P8 自然公園等ボランティア整備事業
- P8 県立自然公園指定50周年
- P8 自然保護関係表彰受賞者の紹介

隠岐ジオパークの世界認定について!

世界ジオパークに認定

国立公園指定50周年を迎えた隠岐諸島は、平成25年9月9日に韓国・濟州島で開催されたアジア太平洋ジオパーク大会において、世界ジオパークに認定されました。

ジオパークは、ユネスコが支援する取組みで、優れた価値を持つ地質遺産を有すると同時に、生態系や人の営みとの関わりまでを総合的に体験できる自然公園です。

現在、世界ジオパークは29カ国100地域が認定されています。

また、日本ジオパークは33地域あり、そのうち洞爺湖有珠山や島原半島など6地域が世界ジオパークに認定されています。



世界認定発表の様子（韓国濟州島）

隠岐世界ジオパークの特長

隠岐諸島は、ユーラシア大陸の一部だった時代から、日本海の形成に伴って、湖や海の底になった時代を経て、約600万年前の激しい火山活動によって現在の諸島の原形が出来ました。

その後、氷期に海水面が下がって半島となった時代や離島の時代を繰り返し、最終的に約1万年前に

現在のような離島になりました。

そのような大地の変化を背景に、他に類を見ない独自の生態系が形成されていくとともに、そこに暮らす人々も離島という地理的条件の中で様々な歴史文化を育んできました。



明屋海岸（海士町）



ダルマガク（隠岐の島町）



島前神楽（西ノ島町）

今後の取組み

今回の認定は、隠岐諸島が有する自然の素晴らしさと地元の方々の熱意ある取組みが世界に認められたものです。

今後は、多くの方々に隠岐に来ていただけるよう、「保全と活用」の調和を図りながら、公園施設の整備やガイド養成など、受入態勢の充実を図っていく予定です。



ガイドによるジオツアー（知夫村）

トピックス

巨大ワニの化石を発見

平成25年7月に隠岐の島町北東部の海岸で、三瓶自然館サヒメルの河野重範学芸員が、巨大ワニの脊椎骨化石を発見しました。

約2千万年前の郡（こおり）層と呼ばれる地層から見つかったもので、当時の隠岐が湖の底または沿岸だったことを示す証であり、日本海・隠岐諸島の形成過程や当時の気候・生態系を知る上で貴重な発見です。



巨大ワニの脊椎骨化石



オキタンポポの分布を調べました

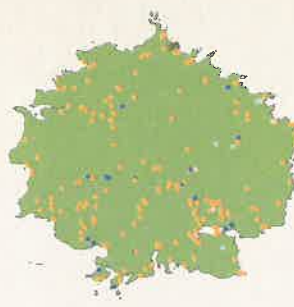
世界ジオパークに認定された隠岐諸島。様々な時代の地質が見られるだけでなく、島ならではの独自の生態系をもつことも評価されました。独自の生態系の例のひとつが、隠岐固有の動植物の存在です。その代表的なものが「オキタンポポ」でしょう。陽気に誘われて野山を歩きたくなる春のころ、黄色い花が隠岐の島々を彩ります。

このオキタンポポは、外来タンポポの侵入、土地の開発などにより、生育が脅かされつつあるという現実もあります。

そこで、今後の保護や保全の基礎データとするため、平成24年春、島根県、三瓶自然館、隠岐ジオパーク推進協



議会により、隠岐諸島でのタンポポの分布調査が行われました。



調査には100名を超える島民の方の参加があり、約700の情報が送られてきました。これらの結果、隠岐固有のオキタンポポ、外来種であるセイヨウタンポポとアカミタンポポなどが確認されました。また、見た目はオキタンポポなのですが、雑種とみられるものもありました。島内ではオキタンポポがもっとも多くみられ、

広く分布していることも明らかになりました。

その一方、市街地などでは外来タンポポが多く分布していることもわかり、これらの対策が課題として考えられました。島ゆえに、今ならまだ間に合います。現在、隠岐ジオパーク推進協議会などが中心となり、外来タンポポの駆除作業が行われています。隠岐の宝といえるオキタンポポ。多くの人の協力で、次の世代に引き継がれることを願っています。



しまねレッドデータブックの 第2次改訂を行いました

「しまねレッドデータブック」とは島根県の絶滅のおそれのある野生動植物を取りまとめたものです。

平成9年に最初の「しまねレッドデータブック」を発行し、その後、平成16年に1回目の改訂を行いました。

今回、2回目の改訂作業を実施し、平成25年3月に植物編、平成26年3月に動物編を発行しました。

【第2次改訂の概要】

- ・ 今回の第2次改訂は、前回の改訂から10年ぶり
- ・ 今回の掲載種数は動植物合わせて合計944種（前回836種）
- ・ そのうち、新規に掲載された種は151種

【入手・閲覧方法】

- ・ 島根県自然環境課ホームページでご覧いただけます。
- ・ 冊子は以下の施設で有償販売されています。
詳しくは各施設にお問い合わせください。

◇三瓶自然館サヒメル 電話 0854-86-0500

◇宍道湖自然館ゴビウス 電話 0853-63-7100

SHIMANE RED DATA BOOK 1473
改訂 しまね
レッドデータブック
2013 植物編
島根県の絶滅のおそれのある野生植物



SHIMANE RED DATA BOOK 1474
改訂 しまね
レッドデータブック
2014 動物編
島根県の絶滅のおそれのある野生動物



しまねレッドデータブック第2次改訂にあわせて 企画展「救え! 消えゆく生きものたち」 が開催されます!

三瓶自然館サヒメルでは10年ぶりに改訂された「しまねレッドデータブック」を広く紹介し、そこに掲載されている生きものたちの現状について興味や関心を持ってもらうことを目的として、宍道湖自然館ゴビウスや宍道湖グリーンパークと連携して、それぞれに山野に生息する種、水辺に生息する種を展示するとともに、生息種の減少の理由なども紹介します。

また、この機会に多くの人々に自然環境の保全や保護について考えてもらうきっかけを提供します。

サヒメルの企画展では、絶滅種や絶滅の危機に瀕している種にスポットをあてて紹介するほか、生息している環境ごとに生きものたちを紹介するコーナーや、生息数が減少する要因（生物多様性4つの危機）なども紹介します。また、県内各地で取り組まれている保護活動などについても解説パネルなどで紹介します。

《山野の生きもの編》

三瓶自然館サヒメル

平成26年3月21日(金)～5月25日(日)

《水辺の生きもの編》

宍道湖自然館ゴビウス&宍道湖グリーンパーク

平成26年4月16日(水)～6月16日(月)



イズモコバイモ



ダイコクゴガネ



城山（須賀比山）自然観察会

布勢には城山じょうやまと呼ばれる、高さ600m弱の小高い山があります。

昔から春は山菜採り、秋は木の実とり、時には家族で頂上からの眺めを見ながらお弁当を食べたりと絶好の遊び場所だったのですが、今は山で遊ぶ子供の姿など見ることはありません。そこで、山や川は自然からの恵みが詰まっている宝庫なのだと、親子で勉強する会をもちました。

新緑も鮮やかな平成25年5月18日、城山と植物に詳しい地元の人を講師に、およそ30名の親子で頂上を目指し出発しました。途中、タケノコを歓声を上げて倒したり、棒を拾って横道に入りささやかな冒険を楽しむ子

供もいました。今まで気にもしなかった草や、木に一つ一つ名前があり特性があることを講師から聞き、とても興味を抱いたようです。そして、食べられる植物を探し、それぞれが公民館に持ち帰りました。

公民館ではおとうさんやおかあさんにその植物をてんぷらにしてもらい、味わい深いかしわ肉の汁とおにぎりいただきました。ゴクナ、コシアブラ、藤の花、カラスノエンドウ、スギナ、ヨモギ、ツツジの花などなど…今まで口にしたことのない「草」をおそろおそろ食べる子もいました。お花は色がきれいなので人気です。

地域の自然に触れ自然の恵みに感謝した一日でした。

布勢公民館 館長 石原晴代



地倉沼チョウジソウ（丁字草）観察会

津和野中央公民館主催、地倉沼を守る会共催で、平成25年6月2日に青野山県立自然公園内の地倉沼チョウジソウ（丁字草）観察会が開催されました。今回は徒歩班と車両班の2班に分かれ時間差で出発、現地で合流し観察を行いました。地倉沼は青野山の噴火でせき止められ時により様相が変化します。また急峻な地形で特別な生態系が維持されています。今年の地倉沼には水もなく、今年の観察会とは違って変わった様相でした。可憐な丁字草の満開は

もう少し先のようなでしたが、35名の参加者の皆さんは、それぞれ鑑賞をしたり写真を撮ったりと思い思いに観察をされました。三瓶自然館の井上博士に地倉沼ができた経過や地倉沼の丁字草、観察時の注意事項等についてお話しいただき、参加者の皆さんも興味深い話を聞くことができ有意義な観察会となりました。雨のため、車両班と徒歩班は昼食後それぞれに解散しましたが、大きな事故もなく、無事観察会を終えることができました。



月山富田城跡

清水月山県立自然公園に位置する月山富田城は、飯梨川流域平坦部の頂点である月山（192m）の上であり、山陰・山陽十一州を手中に収めた尼子氏が本城としていました。北側と南西部を深い谷で隔てられたその地形から難攻不落の城と言われ、戦国時代屈指の要害でした。菅谷口、御子守口、塩谷口の3方面からしか攻められず、城内郭の下段が落ちてても、中段の山中御殿で防ぎ、そこが落ちてても、主山の月山に登って防ぎ、頂上には堀を築き、守りを固め、一度も落城せず、毛利氏との戦いでも兵糧攻めの末に尼子氏が降伏したという事実も記されていません。現在、山中御殿の3,000平方メートルあまりの

広大な平地に残っている石垣や、月山山頂へ続く七曲がりと呼ばれる難所のある登山道が、往時の面影を偲びながらのハイキングを楽しませてくれます。

また艱難辛苦に耐える悲運の武将・山中鹿介やまなかしかのすけの出した城としても有名です。「願わくは我に七難八苦を与え給え」と三日月に祈りながら主家である尼子氏の再興を願い、忠義を買った鹿介。その銅像が非常時に兵士を招集する太鼓たいこのだんがあったという太鼓壇たいこのだんにあり、現在は春になると満開のソメイヨシノが咲き乱れる名所となっています。



月山と山中御殿



七曲がり



太鼓壇の桜と山中鹿介の銅像

自然の中で万葉のスタンプラリーを楽しもう！

蟠竜湖県立自然公園と柿本人麻呂神社の間に自然豊かな島根県立万葉公園があります。広大な芝生広場、遊具の広場、キャンプ場、万葉植物園などがあり、幅広くご利用いただいております。また、園内には160枚以上の万葉集の歌板と35基の歌碑が設置されており、自然を散策しながら気軽に万葉集に触れることができるのも特徴です。

スタンプラリーは、この歌板と歌碑のほか不思議な木など園内10カ所をポイントとしており、スタンプを集めながら万葉集を読み、歌の意味に簡単ではありますが触れることができます。スタンプラリーは通年無料でどなたでもお気軽にお楽しみいた

だけます。園内10カ所のスタンプを全部集めると特製缶バッジをプレゼントします！子どもたちの野外学習にもぜひお役立て下さい。

スタンプラリー台紙は万葉公園管理センターまたは園内の軽食店「やすらぎの家」にて配布しています。

四季折々の花や自然を楽しみながらスタンプラリーをお楽しみください。皆様のお越しをお待ちしております。

※万葉公園管理センター（8:30～17:30）・やすらぎの家（10:00～16:00）（各施設とも12/29～1/3休業）

【お問い合わせ】島根県立万葉公園管理センター
TEL0856-22-2133



万葉公園（太陽の広場）



ポイントの歌板

スタンプラリーの様子

宍道湖グリーンパークの企画展

宍道湖グリーンパークの野鳥観察舎では、限られた展示スペースではありますが、年間を通して大小さまざまな企画展示をしています。

比較的大きな展示については平成19年度から始まり、身近な自然や生きものの興味深い特徴などに注目して隣接する宍道湖自然館と共通のテーマを設定したり、テーマは別であっても会期をあわせ、両会場をつなぐスタンプラリーなどの企画を取り入れたりしてきました。初めは冬期だけだったものを、平成24年度からは夏も開催しています。今年度は夏に「食虫植物と植物のうごき」というテーマで開催し、室内展示のみではなく、園内を

活用した植物クイズも実施しました。展示を見て夏休みの宿題のヒントにされる方も見受けられました。また、この冬には地元出雲市の砂浜・砂丘の自然をテーマにした「菌の長浜は自然の宝庫」を開催し、こちらは10種類の砂浜の生きもののカードのプレゼントも行いました。各種の特徴や生態などのメモ付きで、子どもたちだけでなく大人の方にも好評のようでした。

海、川、湖、平野、里山などさまざまな環境が身近にあります。今後も、地元の自然や動植物をはじめいろいろな視点で魅力を発信していきたいと考えています。



冬の企画展



夏の企画展

断魚溪が地域の力で復活しました！

平成25年8月24日の水害で、断魚溪・観音滝県立自然公園内にある断魚溪は大きな被害を受けました。記録的な豪雨で大量の流木や瓦礫などが断魚溪へと流れ込み、遊歩道は崩壊し、やむなく立ち入り禁止となりました。

断魚溪は、約4キロにわたって連なる奇岩怪石、滝や深淵、高さ80mの断崖絶壁など数々の絶景が四季折々に楽しめる場所として、たくさんの方が訪れています。特に紅葉の頃が最も多く、10月に入ると、紅葉の様子や断魚溪の状況を問い合わせる電

話、また、再開を望む声が相次いで寄せられるようになりました。

それを受けて、地域の財産である断魚溪を復興したいと、地元の方々が連日公園や遊歩道の土砂や流木の撤去、露出した桜の根の埋め戻しなど地道な作業を続けられました。その甲斐あって、10月末には一部を除いて念願の再開となり、紅葉シーズンにはたくさんの方が訪れました。

公園の広場には、ひっくり返って枯れそうになっていたところを植え替えた「復興の紅葉」が誇らしげに立っています。この春には桜も元気に咲いてくれることでしょう。

地元の人たちの力でよみがえった断魚溪、是非たくさんの人に来ていただきたいと願っています。



被災直後の断魚公園



復旧作業の様子



地元の皆さんによって植え替えられた復興の紅葉

自然公園等ボランティア整備事業

匹見峡コースに違法採取啓発看板を設置しました！

この事業は、自然公園等の貴重な自然環境を有する地域で熱意を持って保全活動を行っているボランティア団体、地元自治会等が中心となり、一般県民も参加して施設の維持補修や環境整備を行い、もってボランティア活動の支援と県民の自然保護意識醸成を図る目的で毎年行われています。島根県は、資材を提供し、市町村とともに開催に協力します。利用者が直接活動を行うことにより、県民の自然公園に対する意識が高まり、自然公園の施設整備・補修事業に対する理解が深まることを期待しています。

平成25年度は、西中国山地国定公園において植物の違法採取啓発看板の設置をしました。このコース内には、自然公園法や島根県立自然公園条例、島根県自然環境保全条例などの法令で、大切に保護されている植物があります。これらの植物はその美し



さや珍しさのために観賞用や園芸用として心ない人たちによって採取され、次第に数が減ってきています。そこで、精力的に活動している匹見山の会の皆さん、益田市、島根県の共同作業により、啓発看板を設置しました。看板の設置を契機として、違法採取がなくなっていくことを願っています。

県立自然公園指定50周年

昭和39年4月17日に浜田海岸、清水月山、宍道湖北山、立久恵峡、鬼の舌震、江川水系、蟠竜湖、匹見峡及び青野山の9カ所（※）の県立自然公園が指定されてから、今年は50周年です。

自然公園や自然保護の意義と重要性を普及啓発していくため、広報活動を行うとともに、各地で開催される記念行事やイベントを支援していきます。

（※）その後、追加指定や国定公園への昇格など加除があり、現在は11カ所

自然保護関係表彰受賞者の紹介

● 藍綬褒章

匹見町 鼠谷 清さん

西中国国定公園において、長年自然公園指導員として、動植物の保護や美化活動に努め、利用者への自然保護思想の啓発に尽力

● 島根県各種功労者表彰(島根県知事)

大田市 伊藤 宏さん

自然公園指導員、大田市環境審議会委員ほか

奥出雲町 横田山の会

比婆道後帝釈国定公園における、自然保護や自然景観の保全活動、キャンプ指導活動

● 「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰

大田市 大代高山会

希少動植物に指定されているギフチョウ、イズモコバイモの保護・保全活動、大江高山自然観察道の整備と普及啓発活動

● 自然公園関係功労者環境大臣表彰

奥出雲町 藤原 政明さん

自然公園指導員、島根県自然解説員ほか

● 自然公園指導員表彰(環境省自然環境局長)

松江市 宮廻 茂美さん

自然公園指導員、自然保護レンジャーほか

● 自然歩道関係功労者表彰(環境省自然環境局長)

奥出雲町 鯛ノ巣の自然を守る会

鯛ノ巣山の草刈りや美化清掃など自然歩道の維持管理に尽力

● 環境保全功労者知事感謝状

雲南市 高橋 幸子さん

自然保護レンジャーほか

大田市 松原 勝志さん

三瓶自然館インタープリターほか

大田市 大田の自然を守る会

希少動植物の保護活動及び地元小中学校の環境学習への貢献ほか

大田市 NPO法人水と緑の連絡会議

三瓶山の草原保全、希少動植物の保護活動ほか

隠岐の島町 元屋オキシャクナゲ保護育成会

オキシャクナゲ自生地の巡視や保護管理活動ほか